

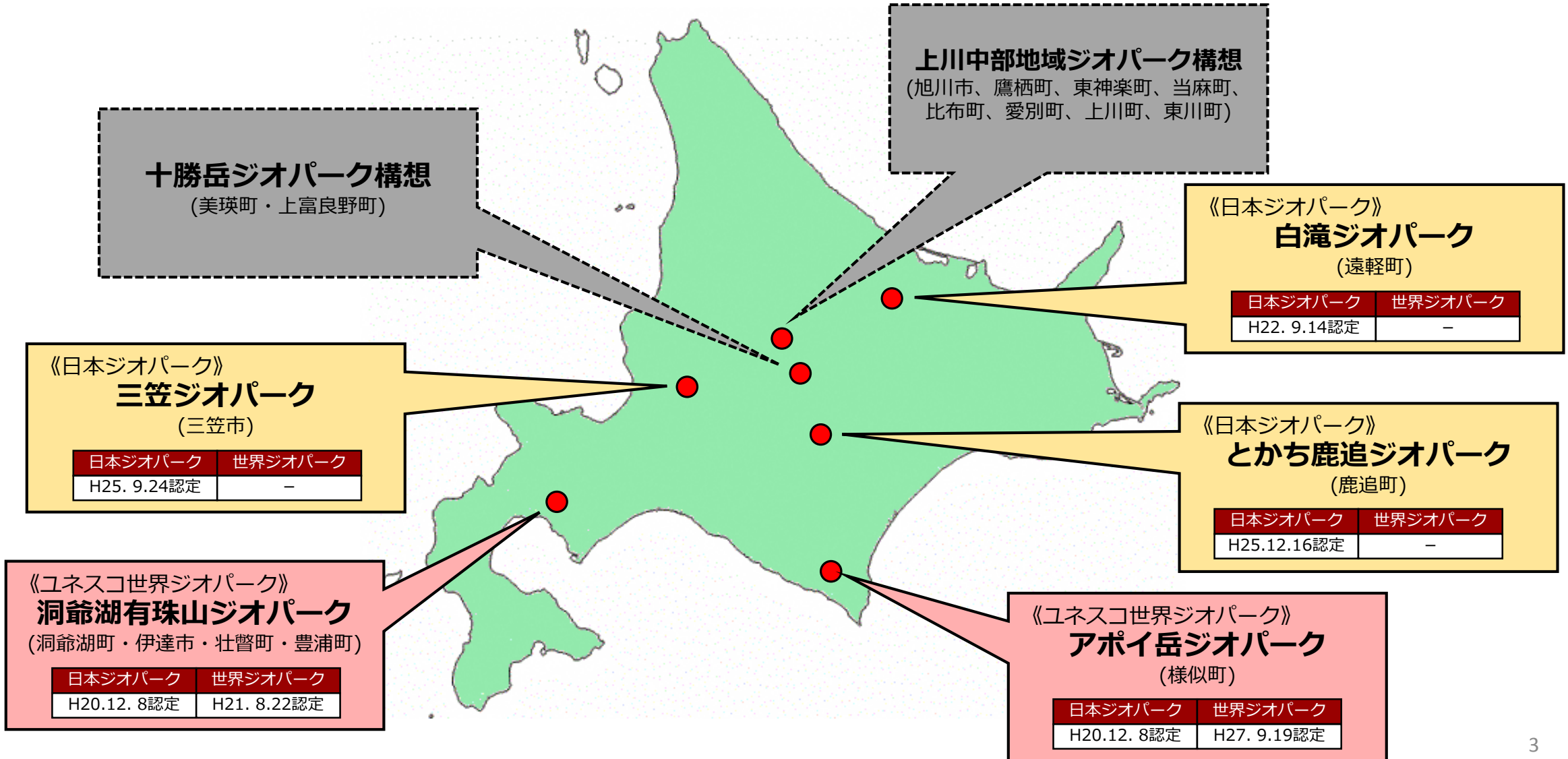
北海道ジオパーク 活動プラン

平成30年2月
北海道ジオパークネットワーク連絡会議

本プラン策定の目的

- ジオパークは、地形学・地質学的に重要な地層や地形などを含む、一種の自然公園です。
- 北海道には、国内最多の5つの日本ジオパーク（洞爺湖有珠山、アポイ岳、白滝、三笠、とちち鹿追）があり、さらに2つ（洞爺湖有珠山、アポイ岳）は、世界ジオパークに認定されているほか、現在、十勝岳地域（美瑛町・上富良野町）、上川中部地域（旭川市、鷹栖町、東神楽町、当麻町、比布町、愛別町、上川町、東川町）がジオパーク認定を目指して活動しているところです。
- ジオパークは、その保護に取り組むことだけではなく、多くの方々が大地の成り立ちについて知識を深め、自然と人間の共生を深く理解する場所として活用を図ることが重要であり、歴史や地質など各地域の特色を活かしながら、重要な地域資源として、ツーリズムなど観光振興や地域振興に繋がること期待されるとともに、環境教育のほか、火山災害などの防災教育における教材として活用されることが求められています。
- 本プランは、ジオパーク間の有機的な連携を図り、道内ジオパークを本道の活性化のために有効に活用することを目的として策定するものです。

北海道のジオパーク (平成29年12月22日現在)



I 道内ジオパークの連携強化

- 現在、既にジオパークに認定されている地域や、今後、ジオパーク認定を目指す地域の関係機関や団体が連携を図り、本道の地域活性化に向け、ジオパークを活用した取組の企画立案を検討するほか、ジオパークを取り巻く様々な情報や活用・保全に関するノウハウを共有することにより、道内ジオパーク全体の活性化を目指します。

II 道内ジオパークの取組促進

- ジオパークを環境教育等の教材や観光資源として有効に活用するには、それぞれのジオパークの魅力を磨き、地域ごとに地域の実情を踏まえた取組を活発化させることが重要であり、様々な支援制度を活用しながら、中長期的な視点から計画的に取組を進めます。

III 道内ジオパークの発信力強化

- ジオパークを地域の貴重な観光資源として地域活性化に生かすためには、個々のジオパーク地域での積極的な発信が必要ですが、併せて、道内ジオパークが連携して、イベント情報等を発信することで、相乗効果が期待できることから、その手法等について検討を進めます。

道内ジオパークの連携強化

■道内ジオパークの連携強化 ～基本的な考え方～

<道内ジオパーク地域の情報交換の場の創設>

- ジオパークは、地域の様々な主体が地域の実情を踏まえ、活用や保全に取り組んでいますが、別の地域での活動を参考にすることでよりきめ細かい取組の実施が期待できると考えます。
- さらに、これから世界ジオパークや日本ジオパークを目指す地域においては、既に認定されている地域でのノウハウを情報共有することは、今後の活動に向けて非常に有益です。
- また、ジオパークを観光資源として生かすため、観光関係者との情報交換・情報共有も非常に重要となってきます。
- こうしたことから、ジオパーク地域の推進協議会、市町村、民間団体、振興局はもちろん、観光関係者などが一堂に会し、それぞれの課題や道内ジオパーク全体の課題などについて意見交換を行う場を創設します。

<各ジオパークの行事やイベント等の情報共有>

- 「情報交換の場」において、各ジオパークで実施されるイベント等を情報共有し、必要に応じて複数のジオパークでの連携や一体的なPRなどを検討し、効果的な周知や集客につなげます。

ー北海道ジオパークネットワーク連絡会議の創設についてー

1 目的

道内ジオパークの関係者が一同に会し、様々な情報交換や情報共有を図ることでジオパーク地域全体の活性化を目指す。

2 参集範囲 (事務局：北海道地域創生局地域政策課、その年度における幹事振興局)

- ・ジオパーク推進協議会
- ・ジオパーク関係振興局 (空知・胆振・日高・オホーツク・十勝・上川)
地域政策課、商工労働観光課など関係課
- ・観光振興機構地域支援事業部、北海道立総合研究機構環境・地質研究本部、北海道博物館
- ・ジオパーク関係団体等 ～ ※ 必要に応じて参集

3 開催内容

- ・ジオパークを取り巻く状況などの情報共有、意見交換
- ・現地視察 等

4 その他

- ・原則、年1回開催
- ・関係振興局持ち回りで幹事振興局を設定 (幹事振興局地域で開催)

－ 北海道ジオパークネットワーク連絡会議の開催例 －

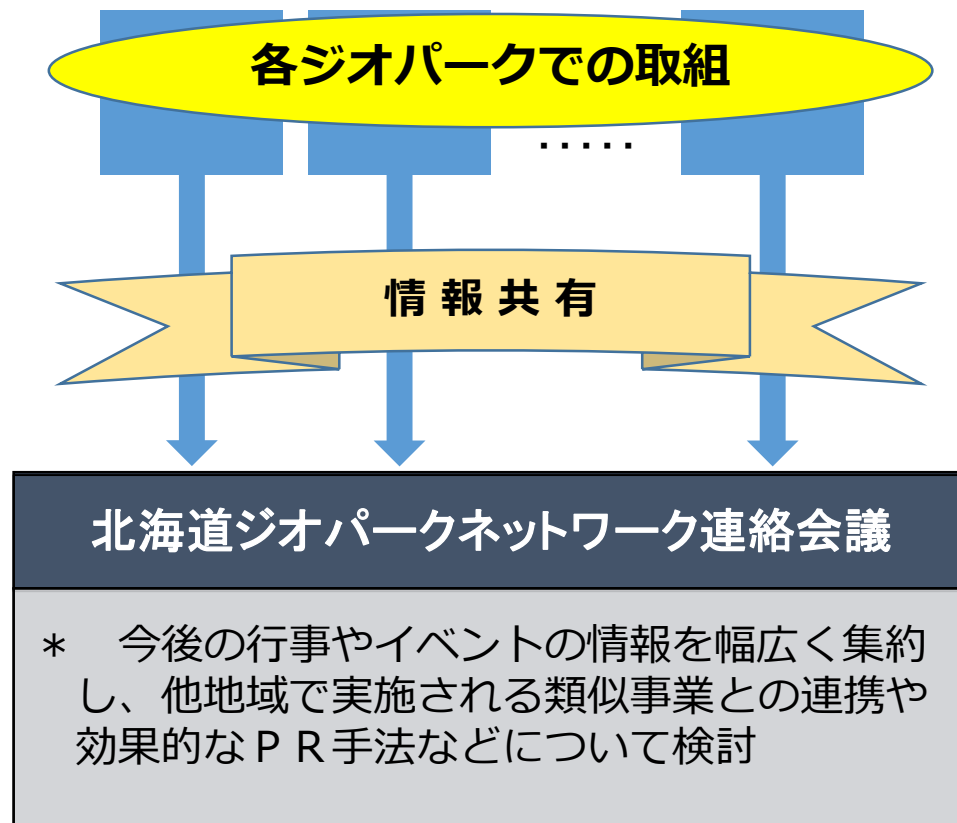
<開催場所> ジオパーク地域を有する市町村

【開催内容例】

- 1 開会
- 2 ジオパークの活用や保全に向けた取組事例紹介
 - ・連絡会議開催地における取組事例紹介（推進協議会、民間団体）
- 3 意見交換等
 - ・各ジオパーク地域から議題提供
- 4 情報提供・情報交換
 - ・事務局及び各ジオパークからの情報提供等
 - ・今後のジオパーク関連イベントや事業等について情報共有
- 5 その他
 - ・次回開催予定等の連絡など

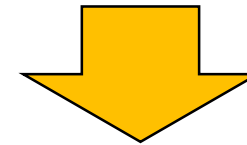
※別途、開催地の現地視察、懇親会を予定

各ジオパークの行事やイベント等の情報共有について



連携意識 の向上

- イベントカレンダーの作成など情報共有により、ジオパーク関連の取組を活性化
- 地域間連携を強化し、道内ジオパークを一体的にPR



道民の 機運醸成

- 北海道の貴重な地域資源としての意識付け
- 企業や民間団体などの活用促進

道内ジオパークの取組促進

■道内ジオパークの取組促進 ～基本的な考え方～

<ジオパーク地域の取組推進>

- ジオパークは、観光資源や教材など、様々な形で有効に活用されることで、他地域との差別化が図られる貴重な地域資源であり、各地域では工夫をこらして地域活性化に取り組んでいるところです。
- こうした取組は、一過性に終わるのではなく、持続的に実施していくことが重要であり、新たなビジネスの展開といった可能性につながるものと考えられます。
- そのため、推進協議会や市町村、道（振興局）、民間団体、地元企業などがジオパークの活用に向け、計画的・戦略的に様々な事業を切れ目なく展開していく必要があります。
- 道（振興局）においても、地域政策推進事業（振興局独自事業）などにより、ジオパークの活性化に向けた取組やジオパークを活用した取組の実施に努めてまいります。

<地域一体となったジオパークの活用促進>

- ジオパークの活用に向けた取組を持続的なものとするためには、それぞれの主体が単独で企画立案、事業実施をするだけでなく、地域が一体となって、役割分担をしながら様々な取組を行うことが重要です。
- 前述した「北海道ジオパークネットワーク連絡会議」などの場を活用し、各主体における連携意識を高め、有機的な事業の実施に努めてまいります。

道内ジオパークの発信力強化

■道内ジオパークの発信力強化 ～基本的な考え方～

<様々なメディアを活用した広報の推進>

- 各ジオパークで実施される様々なイベントについては、各地域においてプレスリリースするなど、周知に努めているところですが、今後、さらなるジオパークの魅力発信や集客力UPを図っていくためには、マスコミへの情報提供のほか、SNSの活用など、これまで以上に情報発信を強化していく必要があります。
- コミュニティFMや地域情報紙などを活用した地元への情報発信と併せ、道外向け雑誌などへの露出拡大に努めるなど、様々な対象への発信を検討してまいります。

<道内ジオパークの一体的な情報発信>

- 関係団体のウェブサイトを工夫するほか、ジオパーク関連イベントのプレスリリースをジオパーク関係地域共同で行うなど、道内ジオパークを一体的に情報発信する手法について検討します。
- また、マスコミへの関心を高めるため、記者会見などで知事がジオパークの話題を発言する機会をつくるなど、道としても機会をとらえ、積極的に情報発信に努めてまいります。